都市の保育に必要な保育環境と教材

菊地明子

戦後、幼稚園が各地に復興または、再開園した頃、私は新卒として幼稚園教師の一歩をふみ出そうとし、東京駅に降り立った。まるで田舎から青雲の志を立てて上京したような言い方だが就職先が東京駅八重洲口の前にあったのだからしかたがない。

もちろん現在のように、大きなビルが林立していたわけでもなく、東京駅も現在のようではなかった。

しかし、八重洲口の前に立って―私は、「こんな所に幼稚園があるのかしら」とまだ半信半疑でいた。公立幼稚園の見学にもいき、たしかに鉄筋コンクリートの建物の中にも幼稚園の部屋があることは知っていた。しかし、田園の中で育ち、幼児の生活するところは、広い野原、変化に富んだ木々、おもしろい草々の中にこそある、と思いこんでいた頭には、この東京駅の前や、銀座などという所には、幼児のすごす花園など、あるべきはずがない、とかたくなに思っていたのである。そして、毎日びっくりするようなことの続く、ビルの谷間での幼児との生活が始まったのである。なる程、人の住む所にはおさなごがい、そして、幼稚園もあり、学校もあるのだ。以来、十何年、この都市の真中での保育を続けているのである。しかし、現在でもなお私は、「都会は子どもの育つ所ではない。ねっころがっても大丈夫な土と、美しい水と空気の中でこそ子どもたちは、子どもらしい力を出して育つことができる」という考えや気持を持ちつづけながら都会の幼稚園での春秋をすごしている。

都市であろうと、郊外であろうと、農山村であろうと、保育の根本目標はかわらない。しかし、毎日の生活となるとその目標へ進む条件や方法が具体的にかわる。それは、幼児がそれぞれの環境の中でものを見たり経験したりしていくからだ。

環境、と一口に言ってしまうが、幼児をとりまく環境の中で、どうにもならないものと、なんとかなるものがある。大きく分けてみると、「自然的なもの」「物的なもの」「人的なもの」とあり、自然的なものは、人が居を移さないかぎりどうしようもないものである。物的なものと人的なものは、少しは、くふうや、人間の考え方次第で何とかなるものであろう。

○都市でもっとも欠けているものはなにか

だれでもまっさきに〝自然に恵まれていない〟ということをあげるであろう。しかし、都市といってもさまざまな様相があり、一概には言えない。ここでは、東京のど真中、私が勤務しているあたりを念頭において考えてみたい。

1　土がない

自然の要素の中にもいろいろあるが人為的にあれこれと手を加えこねくりまわされたここには土がないのである。あるけば頭にひびくようなコンクリート、母なる大地、などというには、コンコンとあまりにもひびきがよすぎる。せめて、園庭、校庭ぐらい土を残しておく考えはなかったのだろうか。テニスコートには、手入れの届いた土が残されているのに。子どもたちはかける、かければころぶ、何回かころびながら、やがて、バランスをとってうまくかけっこをすることを知っていく。しかしころべば、ヒザ小ぞうをすりむく。土と、コンクリートではその被害の大きさはちがう。非常に危険な所で遊ばなければならないのだ。

コンクリートの上には生物は育たない。霜柱の不思議もみることはできない。しかし、そう言っていても始まらないので、次のような対策を立てる。

・できるだけ、土のあるところへつれ出す。
・花壇や雑草園を多くつくる。
・砂場の面積をできるだけ大きくとる。

土はできるだけ畑の黒土といわれるものをみつけるようにする。みかん箱に一箱六〇〇円あまりもする。保護者にも呼びかけておくと田舎へ出かけたときなど持って来てくれることもある。〝東京には空はない〟という。ほんとうに美しい空は、みられないかも知れない。しかし、まだ空まで切ったり掘ったりたたいたりすることはできないので、ビルの谷間からでも、気をつけていると、飛行機雲をみつけることもでき、ビルがシルエットをえがいている茜色の夕焼けも見ることができる。教師が、こうしたものに、「あっきれいな雲ネ！」「夕べの夕焼けみた？」と問いかける人であれば、おぎなうこともできる。むしろ〝東京の生活には土がない〟という現実である。現在ある土の豊かな場所をたいせつにして、できるだけ素手でふれさせてやりたいと思う。

草花の栽培
植木鉢・植木箱などの利用により土にふれ、草花に接する。

○何とかなるものは、何とかしよう

一歩外へ出れば緑の木々や草原と接することができるという田園ではないから、一番苦労するのは、自然的な環境設定と、教材をさがすことであろう。〃自然〃というからには、物すべて生きておらねばならず、それが苦労の種である。

○草花の栽培

先に〃土〃がほしいという所でふれたが、できるだけ花壇〜土のある物を植える所をたくさんつくりたい。しかし固定した場所が得られないとすれば箱に車でもつけて移動することを考えなければならない。

・移動花壇。材料は、少しお金がかかるが檜を使い、ていねいに作ってもらう。外がわ内がわに防腐剤をぬる。少し天日でかわかしてから使う。

・植木台。植木鉢を置く棚である。子どもの背丈に合わせて、二段ぐらいにつくる。

・植木鉢入れ。朝顔や、チューリップを育てるのに、年長児に一人一鉢ずつ与えることにした。しかしこれを置く場所がない。必要が生んだ職員の一人のアイデアである。一年に一度、ペンキでぬりかえる。これは子どもにやらせようと思う。（屋

植木鉢入れ　屋上のコンクリートのへりにかかっているもの。

上――講堂の上）のコンクリートのへりにかけておく。一個六〇〇円～七〇〇円でできた。

・植木鉢。できるだけ新しくないものをたのんで買うようにしている。

・学級用の植木箱。

・雑草園。

・栽培用具として・中型スコップ、シャベル、如露（大小とりまぜて三〇個ぐらい。）

・小動物の飼育。小動物の飼育は、数多くいろいろなものを飼うよりも、三点ぐらいにして、できるだけ丈夫で長持ちさせ、家族をふやしてやりたい。

・うさぎ(移動できる箱を用意する。園として管理する)、ちゃぼ、かめ、小鳥（十姉妹がいいと思う。これは学級で受持ち、保育室で飼育させる。木製の箱を使った方がよいようである)、せきせいインコも丈夫できれい。

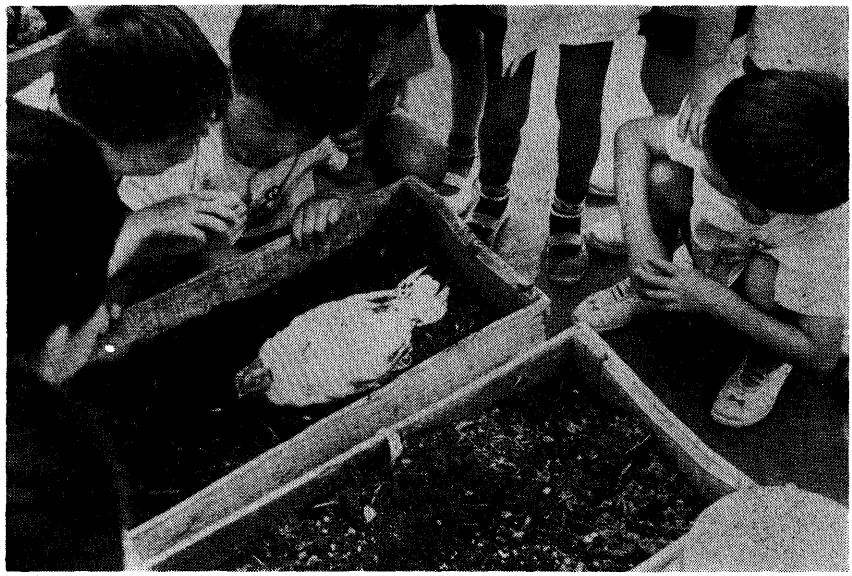
・時季的においてやりたいもの。

おたまじゃくし（せめて蛙にしてやる)、えびがに。

・金魚、または熱帯魚（美しく、変化があるし、ものによっては丈夫である。しかし、冬期と休み中の対策を立てておくこと。

他の動物にも言えることであるが）

もっとほかにも数えあげればたくさんあると思われるが、つづ



にわとりをみる

けて飼うことができるという可能な範囲を考えることが必要だと思う。ただ並べておいては何もならないのだから。

○運動を活発にすることができるための環境

広い場所と土、これは活動的な幼児にとって、何物よりもありがたい環境だと思う。しかし、都市の幼稚園はこの点で極端に制約をうけているのだ。そこで、できるだけ運動量の多い遊具を与えてやろう、ということになる。しかし、固定して、デンと居座ってしまう遊具が多くなれば、それだけ動きまわる場所がなくなる。そこで、可動式というか、持ちはこびのできるものが考えられる。

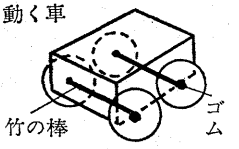
・大型の積木。もはや積木はたとえ大型であっても消耗品と考えたい。キズなどついてもかまわない。外へどんどん出して使わせる。

・ボール。大、中、小、できるだけたくさん。思いっきりボール遊びができる場所は、幼稚園の庭しかない。いろいろな運動ができる。

・なわとび。長いの短いの、ゴムなわ、など。

・マット。鉄棒の下、おすもう用、と安全確保のための必需品。

・動く車、自転車。これも幼稚園のみがのびのびと遊べる場所だからである。動く車は、ダンボールで幼児が作ったものが安



全であり、意外に丈夫なことを発見した。車は、大きい組板の車を使った。この車だけ売ってくれないかと思っている。

・砂場。

先に、できるだけ大きくと記したが、もしも都市の中でも幼稚園だけの園庭が与えられたら、庭の1/3ぐらいは砂場にしてしまいたいと思う。できれば、川砂の砂場と、いわゆる土でドロンコ遊びができる所とがほしい。砂や、土は衛生面を考慮しなければならないと思うが、土の砂場も与えてやりたい。

・木のぼりしてもいい木。

公園へつれていっても木には登れない、公共の物だからである。でも、あの木登りというのは実に楽しいものであると記憶する。力、バランス、など、いろいろな機能を育ててくれる。はん登棒というのを木のぼりの木にかえたようなのができないか、と思う。

以上、記してみると、あたりまえのものしかないようである。必要なとテーマにはあるが、これ以外にも不可欠なものはあろう。しかし都市という条件のもとで、最もありふれたもので、最も活用価値の多いものをとりあげたつもりである。（ブランコ、スベリ台巧技台などはあるという前提で考えた）

○その他のもの

また〝土〟がでてくるが土の上に物を描いたりしてもさっと消してしまう、といういい点がある。しかしコンクリートの上ではそれは落書きとしてとがめられてしまうこともあろう。そこで次のようなものはどうであろうか。

・コンクリートの上に物をかいたら、「デッキブラシ」でこすって消す。

・大きなベニヤ板数枚。

大きな画用紙である。スポンジにそれをつけて、さいごに消しておいて何回もかく。

・内容を精選したうえでの視聴覚教材。

テレビにしろ映画にしろ都市では、むしろ過剰なものである。それだけに内容をえらばなければならない。むしろ経験を補う教材として考えたい。

以上、せまい視野からの考えや経験によるものを書きつらねたが、都市の子どもたちも、豊かな自然に対する感覚と、感受性をもち、たくましく行動できるようにと願っている。

そして、都市の保育の中で一番必要な環境は、その欠如したものを強く意識し、問題をもち強い興味と関心をもって、自らやってみようとする態度のある教師であろう。

（中央区立月島第一幼稚園）